



寄って 話して 自ら気づく

「親の力」をまなびあう学習プログラム

くらべないで！

～同じ子供なんて一人もいない～



イラスト：うじな かずひこ

まだまだ幼いと思っていた子供の世界は、家族を超えて広がり、さまざまな経験をするようになります。だんだんと親の側から離れていくわが子の姿に寂しさを感じることもあるかもしれませんが、子供の成長を喜び、自ら伸びようとしている芽をみつけてしっかり伸ばしてあげましょう。子供にとって心安らぐ居場所になっているかどうか家庭をもう一度見つめ直し、子供と一緒に親も成長していきたいものですね。

考えましょう,出し合いましょう

小学3年生のミキちゃんは、算数が苦手でした。

今日、学校で算数のテストがあり、お母さんに見せています。ミキちゃんは…。



① 母親のセリフを入れてみましょう。

② テストが90点なら、あなたなら何と言うでしょうか。

③ ○あなたは他の子と比べて、自分の子のどんなところが気になりますか。

○きょうだいと比べて、どうですか。

④あなたが子供だったとき、

○親から人と比べられて嫌だった体験はどんなことですか。

○うれしかった体験はどんなことですか。

⑤子供はどう思っているでしょうか。



学習を振り返りましょう

自分の中で、分かったこと、考えが変わったことがあれば、書いてみましょう。



さらに考えましょう

● 同じ子供なんて一人もない

テストで何点とったか、どれだけ何々ができるかなどと、他の子供や平均値との比較に目を奪われ、自分の期待から子供の評価をすることは、子供たち一人一人の個性や成長のために良くありません。そういう親の下では、子供まで相対的な優位ばかりを気にするようになり、自信をなくしたりしがちです。親は、比較して不安になるのではなく、どんなときも子供の個性と成長を信じ、ゆっくりゆっくり育てたいものです。

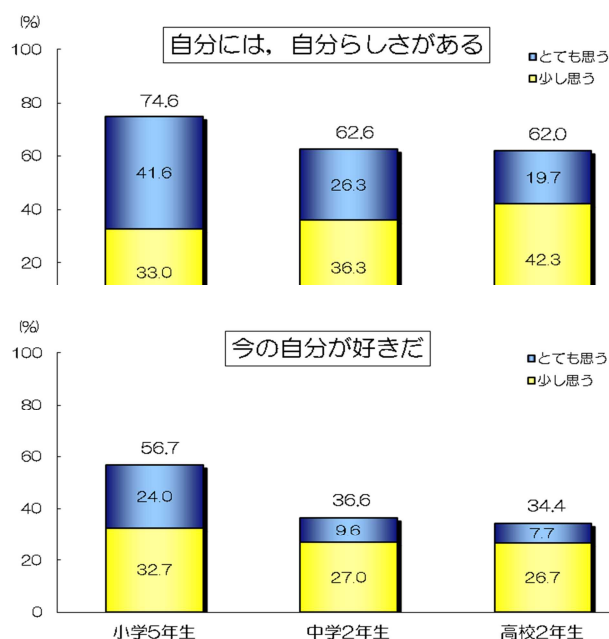
● ダメなところを責めるより、良いところを増やしていこう

子供に大切なのは、自信と、自分を大切にできる力です。それは植物の根のようなもので、深く広く張るほど大きな実りをもたらします。表面的なことにとらわれることなく、その子が大きく育つことを信じて豊かな水や栄養を与えましょう。

そして、その水や栄養となるのが、子供の良いところを見いだし、ほめることです。叱るときは叱り、ほめるべきときはちゃんとほめる。一つ叱ったら三つほめるぐらいのバランスを心がけましょう。ほめられることで子供は喜びを感じ、自信や自尊心を育てていくのです。

（家庭教育手帳 小学校（低学年～中学年）編 文部科学省より）

参考資料



独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査」平成26年度調査報告書 より

『私と小鳥と鈴と』金子みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面（じべた）を速くは走れない。

私がからをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

出典：『金子みすゞ童謡全集』（JULA 出版局）

お問合せ：〒726-0003 広島県府中市元町 1-5

府中市教育委員会 tel (0847) 44-9023 mail seisaku_edu@city.hiroshima.jp